

# フリーテン人生

## 無邪気な

### 視点

#06

## 心も揺れる日本

起こっている。そして、日本が列強

諸国から受けるダメージを出来るだけ回避しようとしたものの、国内改革しないとどうしてもグローバル経済に対抗できないことから、幕府を転覆し明治政府を拵えた。その明治政府の最大の課題はグローバリズムの中で生きぬくには、不平等条約を撤廃し、負債を減らすことと、さらに増やさないことだった。

弱体化した幕府にあってリーダー不在のこんな野蛮な国など植民地にしてしまえ、という腹の列強国も多かった。国際協定や典範の手順が列強次第という時代背景の中、治外法権を課され、関税自主権も持たず、外貨流通の制限を強いられていたが、それでも、法整備、行政改革などで国内改革を推進する一方、日本が搾取されないように帝国主義の侵略を政治家と官僚がタッグを組み水際外交で国益を死守した。

鎖国から開国、江戸幕府から明治政府それぞれの過渡期に流された血、そして命を賭した外交という過程を俯瞰すると、戦後直後の日本が復興する過程で、GHQの機嫌を取

りながら行った諸改革と、現在の日本が再びグローバル化に差し込んできて、既存の国内システムの変革が余儀なくなりつつある現在の状況とは、ある意味共通するものである。

条約は国内法に優先するだけに、TPPのことで反対派と賛成派が国内で紛糾するのは無理もない。不平等条約撤廃に至る過程でも、井上薫、大隈重信などの失策失敗が見受けられるし、当時の彼らも試行錯誤で命賭けだった。たぶん、現閣僚たちも同じ気持ちだろう。史実を眺める後、人たちが将来どんな評価をするか、と気にしていたらキリがない。今をもって何が正しいかあったか、などと誰が言えるのか。日本は国際競争社会のスタートラインに立ちながら、それを無駄にしたこともあったが、遅しかりカバリもしてきた。但し、それは信頼に足る政治家と行政官がいたから、という前置きがある。

さて、昨今は幸せというフィクションに、それを造りだした人間自身も振り回されている感もある。21歳にして既に完成された人格を有するブータン国王の言動には、その前国王が掲げたNGH（国民総幸福量）にも顕れているように慮りの深さがある。

ある。功利主義で我々が築いてきた経済社会とはまったく違う次元の思想を背景にしている。そして、ブータン国王を見てみると、昭和30年代の厳しさの中に共存した日本人の情が感じられる。我々の価値観は食んなどころでも揺れ始めている。厳しい扶持を求めて、世界がこれだけ厳しい状況にあるだけに、発想の転換が求められる。ある国がエゴを押し通せば、これからはその国が危機に晒されることにもなりかねない。孤立させると全体主義に走る、同盟国同士の密接さが裏目に出る、などと前世紀的な言い掛かりをつけられることはないにしても、歴史は我々に危機のパターンをいくつも教えてくれていると思うのだが……、などとこれも釈迦に説法だろうか。

### マック木下

ゼネコン、商社、航空旅行業、世界で過ぎた50代。1980年代から主に英国に在住し、英人が本名をちゃんと発音できなかったの、いつしかマックに。ジャンルには無節操なライターで、執筆歴は10年間ほど。専門は日英関係史とロンドンの歴史散歩。寄稿先は『英国特集』『R.S.V.P.』『Quality Britain』『Taste of Britain』『未来教室』『ぼんじゅーるレマン』のほかミニコミや会員誌など。